

スマートベータか？時価加重指数か？

スマートベータとは、極端に言えば、時価加重指数(TOPIX 等)以外のインデックス運用と考えることができる。バリューや低ボラティリティなどの「ファクター」に傾斜して運用し、長期的に見れば TOPIX よりも良い運用成果が得られるとされている。

しかし問題点もある。その一つに、元来スマートベータの運用成果が良いのか、あるいは TOPIX をベンチマークとして運用を評価しているために、スマートベータの運用成果が良く見えるだけなのか、どちらなのか区別できないという問題である。

この種の命題は昔からよくあり “joint hypothesis problem” (ジョイント・ハイポセシス問題)とされている。仮に TOPIX 以外をベンチマークとするならば、スマートベータで運用する方が良いとする結論は変わってくる。

TOPIX に連動すること自体が基金の目標であるなら、これをベンチマークとするのは正しいだろう。しかし、必ずしも優れた運用成果を示してきているわけではない指数をどうして目標とする必要があるのだろうか。スマートベータは TOPIX をベンチマークとする論拠を問うているのである。

《目次》

- ・ (日本経済)：賃金アップの余力は限定的
- ・ (年金運用)：日銀の長期国債買入れ動向～新発債ゾーンに偏る日銀保有シェア
- ・ (年金運用)：課題が表面化する太陽光発電市場～投資対象としての安定性は魅力